

じごでいせき —神後田遺跡—

じごでいせき たわやまいせき
神後田遺跡は、田和山遺跡から北に 500m、
今井書店グループセンター店の北裏の丘陵にあり
ます。発掘調査で、たわやまいせき
田和山遺跡ができた時代
と同じ時期（紀元前 4 世紀前半）に成立した、
一重の壕をめぐらせる遺跡であることがわかり
ました。たわやまいせき さんじゅうかんごう
田和山遺跡が三重環壕と巨大な遺跡で
あるのに対し、じごでいせき かんごう
神後田遺跡の環壕は、比較的短
い期間でその役目を終えてしまいます。

じごでいせき たわやまいせき
神後田遺跡、田和山遺跡はどちらも山の上か
らお互いを見渡すことができます。弥生時代に
ここに暮らした人たちはお互いを意識しながら
暮らしていたのでしょうか。じごでいせき
神後田遺跡に暮ら
した人が、たわやまいせき
田和山遺跡に移り住んだ可能性も考
えられます。



じごでいせき かんごう
神後田遺跡の環壕



じごでいせき
神後田遺跡でみつかった建物跡

じごでいせき
神後田遺跡航空写真

のぎ やよいじだい いせき と 乃木の弥生時代の遺跡からひも解く、 やよいじん たど こうつう 弥生人が辿った交通ヒストリー

松江市で最も早く弥生人の痕跡がみられるのは、かしまちょうこうら こうぶちく あさくみがわりゆういき
鹿島町古浦・講武地区と、朝酌川流域であることがわかっています。
朝鮮半島から北部九州に伝わった稲作文化は、日本海沿岸を伝って、島根半島から松江にやってきました。当時
の人々は土器をつくり、農工具を使って田を耕し米を作っていました。

さて、この乃木地域に弥生人が暮らし始めるのは、かしまちょうこうら こうぶちく あさくみがわりゆういき
鹿島町古浦・講武地区や朝酌川流域より少し遅れた頃です。人
の動きが活発化し、しんじこ おおはしがわ
宍道湖、大橋川を経由した水上交通や、瀬戸内海地域との交流を深め南北の交通路が発達し、そ
の中継地といえるポイントがここ、乃木地域でした。

たわやまいせき じごでいせき
田和山遺跡、神後田遺跡は、遠方からもよく目立つ山の上にあります。水路、陸路を使い乃木地域にやってきた弥
生人にとっては、まさしく乃木のランドマークであったことでしょう。弥生人にとって、たわやまいせき じごでいせき
田和山遺跡、神後田遺跡は
交通の中継基地であったと考えられます。

たわやまいせき
発掘調査当時の田和山遺跡

のぎ 乃木の いせき 遺跡マップ



TAWAYAMAN



たわやま
田和山遺跡



弥生時代前期～中期にかけての遺跡です。山の頂上を三重の環壕が取り囲んでおり、住居は環壕の外側に作られています。環壕で囲まれた山頂部には9本柱建物や5本柱建物が築かれており、神聖な空間を環壕で取り囲み守っていたと考えられています。日本国内で他に例をみない環壕集落であり、弥生時代を代表する遺跡です。

じこで
神後田遺跡



弥生時代の前期、後期に機能した遺跡です。山頂の縁辺部を一重の環壕が囲んでおり、田和山遺跡で環壕が作られた時期と同じ時期に成立しました。環壕で囲まれた空間はまだよく分かっていませんが、環壕が廃絶した後に堅穴建物が築かれ、人がまた住みついていたことが分かっています。田和山遺跡が中期まで存続する中で、神後田遺跡の環壕はすぐに役目を終えてしまいます。

ともだ
友田遺跡



田和山遺跡と神後田遺跡の中間地点の丘陵上にある、弥生時代前期～後期のお墓が見つかった遺跡です。前期には石を並べて作った配石墓が築かれ、石の矢じりや勾玉、管玉が副葬品として納められていました。中期には墳丘墓、後期には四隅突出型墳丘墓が築かれ、乃木地域に暮らした有力者の墓である可能性があります。(現在は宅地となり遺跡は残っていません。写真は1981～82年の発掘調査当時の様子です。)

たわやま
田和山古墳群



田和山遺跡と同じ丘陵にある古墳群です。古墳時代後期の前方後円墳(1号墳)のほか、方墳6基、円墳2基が見つかっています。1号墳の調査では横穴式石室から須恵器の壺、蓋、提瓶や、鉄製の直刀、鎌、ガラス玉など、たくさんの副葬品が見つかりました。一帯は自然学習の森として散策ができます。四季折々の自然を楽しんでみてください。

のぎふたこづか
乃木二子塚古墳



松江市街地に所在する古墳時代後期後半の前方後方墳です。規模は全長36m、前方部長14m、高さ2.25m、後方部長22m、高さ4mで、乃木地区で最初に築かれた大型の古墳とされています。主体部はまだ分かっていませんが、発掘調査で墳丘のまわりを囲む周溝が見つかっています。